

## 発刊にあたって

松本大学は、この四月に開学三年目を順調にスタートできました。“地域力”に拠るところ大であることは疑いありません。有り難いことであり、この場からも改めて“地域力”に対して満腔の感謝を表させていただきます。大学を取り巻く状況が厳しい中でのことで、大学関係者にとっては喜ばしいことは当然ですが、同時にさらなる飛躍への励ましともなっていて、大学関係者一同は、新たな意欲を燃やしているところです。

松本大学は、“幸せな地域社会づくりへの貢献”を志として、その実践としての地域との協働に専念これ努めておりますが、「地域総合研究センター」は、そのような協働活動の中核的存在の一つであり、2003年度一年間の本センターの地域との協働活動の成果が、本誌に余すところなく記録、報告されています。ただし、「地域総合研究」の発行時期を「松本大学研究紀要」との発行時期と調整を図ったことに伴って、本誌前号（第3号）で2003年度の前半部分を掲載いたしましたので、本号では、その後半部分のみの報告となっていることをお断りしておきます。次号からは、当該年度一年分を纏めてご報告することになります。

第一部には、前号に較べると、さらに多様なテーマにわたる本センター研究員の興味深い個別の研究の数々が発表されています。第二部では、センターの昨年の半年度分の意欲的な活動が報告されています。第三部には、松本大学総合経営学部と松商短期大学部双方の教員スタッフの一人一人の研究・教育・地域貢献という三領域での、昨年一年度分の活動成果が報告されています。

本誌は、以上のように松本大学の地域との連携・協働活動の成果と実体を余すところなく公表することによって、“地域との協働オンリーワン大学”を自負しております本学の真価を世に問うものであります。どうぞ、地域との協働をさらに強固にし、さらに充実進展させるために、みなさまの忌憚のないご批判、ご批評をお寄せいただければたいへん有り難く思います。

平成16年6月

松本大学学長 中野和朗